

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	リニア推進対策事業	会計	一般会計	事業No.	77	施策順No.	81-003
		事業種別	政策・重点	予算科目	2-1-17-10-1		
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり			課等名	リニア推進対策室		
施策	81 都市間交流の推進			事業期間	開始	S50	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①飯田下伊那郡市民(以下「郡市民」という) ②国、県、鉄道建設・輸送施設整備支援機構(旧日本鉄道建設公団)及び東海旅客鉄道㈱のリニア中央新幹線計画関係機関 ③リニア中央新幹線計画路線					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない		
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度		23年度	
	対象をどう変えるか	郡市民の数(人) 県毎月人口異動調査結果10月1日の人口	173178	171966	170577	169540		175533	
	意図	リニア中央新幹線の早期実現に向け、郡市民の関心を高める。							
		リニア中央新幹線計画路線延長(km) (計画延長東京～大阪:約500km)	500	500	500	500	500		
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		リニア中央新幹線に関する講演会等に参加した郡市民の割合(%)	0.17	0.2	0.5	1	1.7	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	リニアを取り巻く状況に合わせ、リニア飯田駅設置総決起大会やシンポジウムを開催したことによって、リニアに対する関心を高めることに寄与した。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>①リニア中央新幹線は、環境負荷が少ない新時代の高速度交通機関であり、その実現は飯田市と大都市圏との時間的距離の大幅な短縮を可能にする。リニアのメリットを活かして本市と大都市圏との地域間交流を活性化し、地域の魅力をより発展させるため、リニア飯田駅設置を確かなものとするよう推進する。</p> <p>②リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会は、飯田下伊那14市町村の自治体、経済団体等が協力して、リニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置を図ることを目的とした団体であり、当地域の中核市である飯田市が事務局を担当している。</p> <p>③リニア中央新幹線を取り巻く情勢の変化から、リニア中央新幹線飯田駅を見据えたまちづくりを目指すリニア将来ビジョンが策定された。このビジョンを飯田市基本構想に活かすとともに、後期基本計画への反映を検討する。また、郡市民のリニアに対する関心を高め、ビジョンの共有化を図るために一層の情報提供を行う。</p> <p>④駅の設置場所については、南信州広域連合の意見集約結果及び、同盟会の決議に基づき、現飯田駅併設を目指す。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 リニア中央新幹線推進体制整備</p> <p>①リニア推進対策本部</p> <p>②飯伊地区期成同盟会</p> <p>2 リニア将来ビジョンの策定</p> <p>3 リニア各種シンポジウム・大会の開催及び参加</p> <p>①リニア飯田駅設置総決起大会・地域づくりシンポジウム</p> <p>②全国同盟会、経済団体全国大会</p> <p>4 リニア啓発活動(影響調査説明会:15会場650人・リニア将来ビジョン説明会20会場566人・生活と環境まつり出展等)</p> <p>5 国等関係機関からの情報収集(国土交通省交通政策審議会等)</p>	<p>1 ①開催回数</p> <p>②負担金、総会講演会参加者数</p> <p>2 会議開催数</p> <p>3 ①参加人数</p> <p>②参加回数</p> <p>4 開催回数</p> <p>5 活動回数</p>	<p>1 ①16回</p> <p>②333千円、350人</p> <p>2 延べ22回</p> <p>3 ①2,550人</p> <p>②2回</p> <p>4 36回</p> <p>5 13回</p>
23年度実施計画	<p>1 リニア中央新幹線推進体制整備</p> <p>①リニア推進対策本部</p> <p>②飯伊地区期成同盟会</p> <p>2 リニア各種シンポジウム・大会の開催及び参加</p> <p>全国同盟会、経済団体全国大会</p> <p>3 リニア啓発活動</p> <p>①リニア将来ビジョンの副読本作成</p> <p>②WEBによる情報発信</p> <p>4 国等関係機関からの情報収集</p>	<p>1 ①開催回数</p> <p>②負担金、総会講演会参加者数</p> <p>2 参加回数・人数</p> <p>3 ①配布学校数</p> <p>②アクセス数</p> <p>4 活動回数</p>	<p>1 ①16回</p> <p>②333千円、350人</p> <p>2 2回、1,000人</p> <p>3 ①19校</p> <p>②50回/月</p> <p>4 10回</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				[22特定財源]ふるさと寄附金、ふるさと基金繰入金 [23特定財源]ふるさと寄附金
		その他	5,663	2,881	5,000	
		一般財源	318,096	319,290	305,170	
		計(A)	323,759	322,171	310,170	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)			0	
		トータルコスト A+B		322,171		

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>・飯田市議会において、リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議を可決。(09/6/22)</p> <p>・南信州広域連合議会の場において、リニア中央新幹線の中間駅の設置場所は、現飯田駅が相応しいことで、意見集約されている。(10/8/27)</p> <p>・リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会総会において、早期実現と現飯田駅併設を目指すことを決議した。(11/2/16)</p> <p>・飯田商工会議所リニア中央新幹線特別委員会において、リニア中間駅は、現飯田駅に併設を目指すとする方針を決定した。(11/2/22)</p>

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①飯田市や自分にはない知識や情報に触れる。 ②相手にない情報を発信する。	施策の成果指標又はムトス指標	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く) ・姉妹都市・友好都市提携、政策連携(大字・海外都市を含む)・防災協定などした団体・組織の数(三遠南信、中京圏を除く)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	リニア中央新幹線は、新時代の高速交通機関であり、首都圏・中京圏等との時間的距離の大幅な短縮による人口流動の増加が期待されることから、関心を高めてもらうために、期成同盟会が中心となり、地域づくりシンポジウムや勉強会を継続的に実施してきた。		
	後期に向けた課題	リニア中央新幹線の実現によって、首都圏・中京圏との交流人口の増進につなげるため、早期完成と飯田駅設置を確実にすることが必要。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	期成同盟会主催による、シンポジウムなどを実施。更に、リニアの実現を見据えた「リニア将来ビジョン」を郡市民の参画によって策定するなど、リニアを取り巻く状況に合わせて展開した。		
	後期に向けた課題	飯田下伊那の将来の指針である「リニア将来ビジョン」を第5次基本構想基本計画に反映させるほか、地域内へ広く共有化するための取り組みが必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	リニア中央新幹線飯田駅設置に向けた正念場の時期であるため、削減は不可能。但し、経費は必要最低限を見込んでいる。		
	後期に向けた課題	リニア中央線幹線の整備計画が策定されるに伴う様々な準備が必要。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	主たる受益者は、リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会を組織している自治体圏域の住民。期成同盟会は、各団体からの負担金で運営され、連携して取り組みを行っており妥当である。		
	後期に向けた課題	前期と同様に、展開することが適当である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行 政はどのような働きかけをしてきたか、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会の構成団体と事務局を担う飯田市が中心となり、早期実現と飯田駅設置を目指し取り組んだものである。飯田下伊那の中核市である飯田市が中心となって推進する必要がある。		
	後期に向けた課題	この取り組みは、期成同盟会の発足以来、官民が一体となって進めてきたものであり、引き続き連携して取り組むものである。		
全体を通じて	4年間の振り返り	平成19年にJR東海が、自己資金を前提に中央新幹線の実現を目指す旨を発表したことから、実現へ向け着実に進展してきている。昭和49年以来、37年間、早期実現と飯田駅設置を悲願とした取り組みは正念場を迎えている。		
	後期に向けた課題	リニア中央線幹線の整備計画の策定に対応して様々な準備が必要。南信州圏域の多様な主体を基軸とした具体的な取り組みの展開が必要となる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--